

令和6年2月

念ざれば花ひじく (坂村真民)

(経営計画書は思い続けた未来を実現する魔法の書)

この文章は1月13日に書いています。去年の年末に税理士法人生駒会計の生駒先生の書かれた生駒会計ニュースに「中村天風先生」のことが書いてあったので、年末に1,994円に買って読んだ「盛大な人生」(中村天風著、日本経営合理化協会)を30年ぶりに読み返して味した。3日肉夢中に存て読みました。この中で印象に残った文章があります。欲についてですが「よく捨欲」というが「人間の欲望」というものは絶対に捨てることはできない。大いに欲望の炎を燃やせ。欲望には苦しい欲望と楽しい欲望がある。本当の欲望というのは楽しい欲望。楽しい欲望のなかで一番尊いのは、霊性満足を目標とする欲望、霊性の満足というのは、常にできるだけ自己の言葉や行いで、他人(ひと)を喜ばせることを目的とする。とにかく他人の喜ぶような言葉や行いを、自分の人生の楽しみにしてごらん」「信念」というものは、人間各自の心のなかにある宿願達成の原動力となるもの。信念というものは、生きている毎日、瞬間の人生に絶対必要なもの。強固な信念をつくる」「想像力を応用して、心に絶えず念願することを映像化して描くことによって信念というものが強固なものになる」「想像を連続して、はつきり絶え間なく、同じことを描きやい、心に映像を絶え間なく描くと同時に自己暗示も絶え間なく反復連続(なきやいけな)」「積極的な自己暗示をかける。自己暗示は、潜在意識のスクリーン上に描かれた映像どおりにそれを実現させる働きを持っている。」「潜在意識を固定する」

1月11日午後1時11分に「第42期経営計画発表会」を開催しました。第一部では、ビエティエグループ総美(そみ)の郡司成江(まさえ)様に基調講演をお願いしました。郡司さんの話では経営方針書は「魔法の書だ」と繰返し話され、経営方針書を道具として活用され、経営をいよく上へ、大切な考え方を共通言語化し、経営理念を元に人材教育されているから、こそ、ビエティエグループの皆様が夢に向かえ、活き活きと働かれていることがよく分かりました。また、羨望の枠を超え、お客様に美しい暮らしをご提案されていることに感動しました。特に動画をみて涙が出てきました。本当に経営計画発表会に1人1人の講演でした。郡司社長おかげさまで。第二部は、鈴木代表の発表です。まず前期の計画と実績です。売上目標24億5千万円に対して実績は24億6,600万円。経常利益3億円に対して2億9,500万円。利益目標が達成できなかったのは、人件費が計画より4百万円増加したこと。そして、11月までは、売上が計画より47百万円不足していましたが、12月に多額の売上が計上され、目標が達成されました(古田土会計Gでは売上=粗利益)第30期おりの12年間で目標が達成されたのは、新型コロナウイルス(2022年)の年を含めて3回のみです。「念ざれば花ひじく」という言葉こそ、経営計画書そのものではないで(ようが)、念ざればとは思い続けること。天風先生の言うように、目標は必ず達成するという強い信念を持ち、1年後、5年後の未来を想像し、未来を映像化したり、デジタル化、言葉にして、絶え間なく実現すると自己暗示をかけ続けると実現します。郡司社長、一倉定先生の言われるように経営計画書はまさに魔法の書なのです。一社でも多くの中小企業に「人を大切にする経営計画書」を作るといのが、私の夢であり使命です。何って簡単に達成できる目標ではないのに実現しているのは、常に絶え間なく数字が達成できると自己暗示をかけ、経営計画書をボロボロにするまで使い切っているからです。鈴木代表は今年が初めての発表であり、正月もゆくり休めなかつたと思います。苦勞(た分)発表はすばい(分)な、わかりやすかつたと大変評判がよかつたです。また経営計画書も去年までのものより、わかりやすく、映像化された未来像MAPはお客様も驚かれていました。過去最高の経営計画書です。皆様是非買って頂いて読んで下さい。

古田土 満